

第5回 大山崎町地域公共交通会議 会議要旨

日 時：平成24年11月22日（木） 午前10時00分 ～ 午前11時55分

会 場：大山崎ふるさとセンター 3階 ホール

出席者：

（委員）江下 傳明 会長、有賀 正晃 副会長、平野 剛（代理出席：辻本 耕一郎）、庄 健介、西山 哲、筒井 基好（代理出席：澤井 貫二）、近藤 智彦、本多 幸雄、木村 彰夫、小西 和子、國枝 滋樹、松本 好雄、長谷川 央、吉田 友美、川合 宏和、越智 啓伸、中川 大、辻村 徳夫、村上 清、井上 義秀（代理出席：富永 秀信）、小泉 満、加賀野 伸一、安田 久美子、小国 俊之、山田 繁雄 各委員

（事務局）企画財政課：斉藤 秀孝、本部 智子、中村 茂樹、江畑 博史
京都大学大学院：松原 光也

（傍 聴） 0人

会議次第

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 事務局からの報告

- ・資料1『地域公共交通会議について』について、地域公共交通会議及び構成員の役割について、事務局から説明。
- ・資料2『第4回会議での委員からの質問について』について、前回（第4回）会議で委員から質問のあった内容に対する回答について説明。

4. 議 題

○ 路線バスについて

- ・資料3から資料6について、事務局から説明し、その後、路線バスについての議論を行った。

【主な意見は以下のとおり】

（会 長） 路線バスの当面の課題、存続する路線バスを地域で守っていくために実施していくべき施策の素案を作成するため、『既存の公共交通の利用促進について』皆様にご議論いただき、提案していただきたい。

（委 員） 公共交通についてみんなで議論し、みんなで利用促進を行い、それを生かしてまちづくりに繋げていくということを議論していくのは非常に重要なことである。

公共交通とは、町に賑わい、活力を持たせたり、地域間の交流を深めるとか、あるいは高齢者の方々が外出し易くなり、また、高齢者同士での交流も深まっていくなど、そういうことを本来、目指すべきところである。

(委員) この会議で、商店で買い物をするために路線バスを大国屋とかラブリー円明寺に寄っていただきたいという要望がもしまとまれば、これを阪急バスと交渉してそれを実現していくという、そういう位置づけの会議ということになるのか。

(事務局) ここでご議論いただき、ご提案いただいた内容は、町長の方で受けさせていただき、また、町施策の中で、それを具体的に進められるものは進め、できないものは将来に渡っての課題として残っていく、そういう形になるかと思いますが、基本的にはご提案いただいたものについてはできる限り実現に向けて努力していきたいと考えております。

事業者におかれましては、それぞれ事業者のご判断もありますので、町の方からのお願ということになるかと思っております。

ただ、そういった中でも、少しでもご努力いただけるものについてはご努力をさせていただくというお願いをしていきたいと考えております。

(委員) 住民の足を確保するためのコミュニティバスを実現させるという目的を持って、私自身はこの場所に参加させてもらったが、今の論点では、事業者ができないと言えば、ここでこれだけ時間を掛けても、それは実現せず、また、町長が、やっぱりお金は出せないと言えばそれまでのことなので、それをここで議論しても、一体私たちはどうしたらいいのかという思いである。

皆さん、いろんなこと考え、意見を出してこられている。会議の中身がどうなのかと思う。

(委員) これまでに、小泉橋からJR山崎駅までの路線が減便となっているので、もうこれ以上悪くならないよう利用促進をどうしていくかとか、路線バスを守る立場でこの会議を進めていくのが大事なのではと思う。

他の市で、バス停から半径500メートルを越えたら不便地域と定めているところがある。大山崎町の場合は、バス停からの距離が全部500メートルの範囲内に入っているので、新たなモノは要らない。

ただ、大国屋やラブリー円明寺に行くというような利用促進を行い、路線を守るなら、1つの考え方としてあると思う。

(委員) バス事業者との関係等についてだが、事業者側から見ると、単独事業としてやるのか、住民の皆さんや行政が支えてくれて、みんなで協力していくようなスキームがあるかどうかによって、需要も違い、事業者側としても新しいことをやるというときに大分違ってくと思う。

また、住民の方と一緒にやっていると、地域の活性化などにも繋がると思うので、そういう視点も含めて議論をしていくのがいいのではないかと思う。

(委員) 路線バスを利用していただくために、使い勝手のいい物に見直していただいて、利用促進を行い、『皆さんが乗らないとバスがなくなるのですよ』というようなアナウンスやPRもする必要があると思う。要は、最終的には住民、利用者の方々が、いかに使っていただけるかということを考えていくのがこの会議の場だと思う。

(委員) 新駅が開業されることにより、円団地域の方から見ると駅までが非常に近くなり、駅までの徒歩圏が広がるが、皆さんの気持ちとしては、路線バスはできるだけ減便しないでほしい、サービスを維持してほしいということであると思う。

私どもは民間のバス会社なので、利用者が減ったら需要と供給のバランスを取るため、便数を減らしたり間引いたりするのは本来かと思う。

ただ、この会議としての総意が、それはできるだけ避けてほしいということになれば、その総意を尊重させていただくが、収支のバランスというものもあるので、「便数を減らさない分、町に赤字の補てんをしていただけませんか」といった話になると思う。町の財政の事情、予算の事情もあると思うが、そのバックボーンにはこの会議の総意があると思う。各立場、代表で委員になっておられるので、「少々町から負担をしてでも路線の便数の維持を強く言ってください」という声がこの中で出てくると、町としても、私どもにそういう思いでお話を持ってこられると思う。今は、減便する見返りの補てんという極端な例の話をしているが、そういうことの総意や、その辺の思いが1つになるような会議の進め方が必要ではと思っている。

町なりこの会議の意見や総意をお聞きしたり、受けたことをお返ししたりするのが私の立場かなと思っている。

(委員) 我々住民としては、額にもよるが、何千万をバス会社に町が財政負担するとすると、それは全部住民が負担するということになるのでそれは困る。

例えば、路線バス利用者が平均1車両当たり4人以内だったら、私はもう路線バスとしてはだめだと思うので、乗り合いタクシーなどの他の公共交通を考えるとというような基準を設けるべきだと思う。人が乗らなかつたら財政負担しますという、無制限みたいな格好になってくるのは、基本的におかしいと思う。財政負担も余り出さないようにしてほしいというのが私の意見である。

(委員) やはりバスというのは、我々のものだという意識が必要だと思う。今は、バスが走っていて、それに乗れて、便利でありがたいと思うだけで、別に経済的にどうこうということは余り意識しなかった。

現実に私が心配なのが、新しく阪急の駅が出来ることによってバスが減便されるのではないかと。大阪や京都に出るには電車は便利である。しかし、長岡京市へ行くには、停留所があちこちにあり、自分の好きなところで降りることができるバスの方が便利である。大山崎へ行くにもバスがあることで、そういう便利性が非常にある。そういう点を、しっかりともう一度認識し、バスに乗ろうよというようなことを役場からみんなに運動してもらって、皆さんの意識を高めていく必要があるのでは。

バスに乗るPRを何とか皆さんで考えてやりましょう。そういうことが先決だと思います。

(委員) バスにみんなで乗ろう、維持しようという考えは、若い世代にはよほどの動機付けがないと浸透しないと思う。ただ便利だから乗っている、少しでも安く乗りたい、自転車で行く日もあるという世代に、どのようにアピールしていくのか。

皆さんいずれ高齢になるし、そのときのことを考えましょうという話だけではその世代には伝わらないと思うので、その辺のこともちょっと議論してもらえたらいいなと思う。

(委員) 70歳以上の方が、病院へ通うのにバスを利用されている方が多いと思う。今、阪急バスで、乙訓の高齢の方に、高齢者向けのサービスのようなことをやっておられるのか、お聞きしたい。

また、町の方も補助制度というのを考えておられるのかというのをお聞きしたい。

(委員) 阪急バス単独の制度では、『はんきゅうグランドパス65』という、65歳以上の方を対象に、阪急バスの路線バスが全線乗り放題の定期券を販売している。他の市町でやっているコミュニティバスでも大半がご利用いただけるので、これからの高齢化社会に合わせた定期かと思う。

(委員) 町の方での補助は考えていただけるのか。

(委員) 現在、町でそういった補助制度はなく、直近に考えているということはありません。ただし、そういった結論が出て、高齢者優待乗車券の発行、これをするべきだという合意形成、総意があれば、町としては受けとめ、予算の配分の中でいかに考えていくかということになるかと思えます。

(事務局) 事務局から1つご提案といいますか、こんなものができるのかどうか、バス事業者にご検討をいただきたいと思うのですが、電車やバスの子供料金は一定の年齢までは無料だと思います。子供が小さく、無料のときはよく電車に乗せていろんなところへ連れて行くこともあると思います。ところが、子供料金が掛かるようになると、そういうものを使わずに、特に若い世代の方ですと、家族で車に乗るほうが経費的に安くつく、そんな価値判断は出てくると思います。

このごろの携帯電話で、いわゆる家族割みたいなものがあつたりしますが、例えば、家族1セットでいくらか安くなるというような、そういう家族割のようなサービスをするとか、そんなことはなかなか現実的には難しいでしょうか。

(委員) 私どもで今、事務局からお話しのあつた家族割というような割引制度は持っていないが、マイカーを控えてバスを利用してくださいというネーミングで『環境定期券』というものがある。通勤定期をお持ちの方が、休みの土日祝に、その定期を持って違う区間を乗られても100円でご利用できる。また、同伴の家族の方も、券面表示区間内であれば100円でご利用できる。土日のお買い物はマイカーをやめてバスでお買い物に来てくださいという趣旨の制度は持っている。

(委員) 円明寺地区の方が、役場などに出てくる場合、バスが利用しにくいのではないかと思います。

(委員) 阪急バスの方にお聞きしたいが、先ほどおっしゃっていた65歳以上のフリーパスというのは、どこに行ったら高齢者の方は買うことができるのか。

(委員) 大山崎の営業所となる。

(委員) 定期券などと一緒にとなるか。

(委員) 一緒である。

(委員) 小さいことだが、そういうのが、利用者にとってまた不便なことになっているのではないかと思います。

例えば、大山崎町と連携して、そういう利用促進を進めるのであれば、広報誌を利用するとか、1カ月に1回ぐらい阪急バスが、例えば、役場などの公共施設に出張に来て、販売するとか。気軽に買えるものであれば、1回試しに買ってみようとか、2カ月、3カ月に1回そういうところで販売するのであれば、切れたときにまた続きを買ってみようかということになるのではないかと思います。

(委員) それはごもっともなご意見である。当初、この高齢者定期をつくったときは、郵便局とタイアップし、郵送でお申し込みいただいたら、郵送で定期券をお返しするというようなやり方もやっていたが、これも余り利用が伸びず、何年かで郵送での購入方法は中止となった。

特定の日だけでもいいと思うので、もし、公共施設をお借りできるのであれば、またそれも検討させていただきたいと思う。

(委員) 私は、高齢者も障害者も両方に関わっているが、例えば、ボランティアに来ていただいている方でも、来るのが不便という方もおられるし、タクシーとかを使って来られる方もおられる。

そういうことから言うと、高齢者に手厚くしていただけるのはいいことだと思うが、町自体の運営というか、全体を見て、どれだけお金を出していただけるのかという部分があると思う。

(委員) 先ほどから、阪急バスの65歳以上のフリーパスであるとか、環境定期券など、いろいろな料金割引制度があるとおっしゃっていただいたが、そういうことを知っている人は余りいないと思う。そういうのを積極的に町のほうがこういうこともできますとPRするというのはどうなのか。一企業に対する優遇とか、そういう問題が出てくるのか。

(事務局) 民間事業者のことにはなるのですが、この会議にも出ていただいているとおり、民間事業者といえども、いわゆる地域の公共交通を担っていただいているという意味では極めて公共性の高い事業者ですので、地元の公共交通の利用促進という観点からすれば問題ないと判断しております。

皆さん方のご提案であれば、そういったことについては行政としてもできる限りいろんな形でPRや活動はしていきたいと考えております。

(委員) 我々は、いろいろな制度や割引制度を持っているが、広報、PRが不足しており、下手である。

行政が企業のPRというのは少し抵抗感もあると思うが、この会議で、やっぱり公共交通の利用促進をするのだという合意形成ができれば後押しをいただけるかなと思うし、優先度の高いバスマップとか案内情報の充実ということもこの中に盛り込んでいただければ、十分その辺もPRさせていただけるかなと思っている。

(委員) 考えというか、アイデアが勝負だと思う。バスを守るということで、アイデアを持っておられるすばらしい人が必要だと思う。町民の方で、そういうキーになる人、熱心な方がおられて、絶えずそういういろんなことをやってもらえれば、ある程度、利用促進に繋がると思う。そこら辺の何かキーがないのかな、見つけられないのかなという気がする。

(委員) 整理の仕方というか、進め方だが、現状の路線バスの課題や問題点、これを洗い出させていただいて、これをどう潰していくか。資料1に示しているそれぞれの役割でどう潰せるのか。それも短期で潰せるのか中長期かかるのか、夢物語で終わるのかというような整理をする。そういう整理の仕方をされてはどうかと思う。

(会長) なかなかご意見等出しにくいと思うので、利用促進については本日の資料も参考にさせていただきながら、もう一度それぞれで課題等も踏まえお考えいただき、次回会議で素案に反映させられるようなご意見を賜りたいと思います。

次回についてはそれと、新駅に合わせた路線の再編と既存の路線の再編についても議論を進めていきたいと思います。

それでは、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。

皆さん、長時間大変ありがとうございました。

5. 閉会